

平成29年度

全国学力・学習状況調査

北広島市の調査結果（報告）



—大志をいだくまち—

北広島市教育委員会

平成29年10月

目次

1. 今年度調査の概要・内容

- (1) 調査目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- (2) 調査対象・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- (3) 調査の方式・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- (4) 調査の内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- (5) 調査実施日・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- (6) 調査を受けた児童生徒数・・・・・・・・・・ 2

2. 調査結果分析の留意点

- (1) 調査結果についての留意点・・・・・・・・ 2
- (2) 調査結果の掲載方法について・・・・・・・・ 2
- (3) 調査結果の表示について・・・・・・・・ 2

3. 市内小学校の結果概要

- (1) 教科全体の状況・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- (2) 国語Aの全体的傾向・・・・・・・・・・・・ 4
- (3) 国語Aにおいて平均正答率が全国に比して3ポイント以上上回った問題・・ 4
- (4) 国語Aにおいて平均正答率が全国に比して3ポイント以上下回った問題・・ 4
- (5) 国語Aにおける無解答率について・・・・・・・・ 5
- (6) 国語Bの全体傾向・・・・・・・・・・・・ 5

- (7) 国語Bにおいて平均正答率が全国に比して3ポイント以上上回った問題・・・6
- (8) 国語Bにおける無解答率について・・・・・・6
- (9) 算数Aの全体的傾向・・・・・・・・・・・・6
- (10) 算数Aにおいて平均正答率が全国に比して3ポイント以上上回った問題・・・7
- (11) 算数Aにおいて平均正答率が全国に比して3ポイント以上下回った問題・・・7
- (12) 算数Aにおける無解答率について・・・・・・7
- (13) 算数Bの全体的傾向・・・・・・・・・・・・7
- (14) 算数Bにおいて平均正答率が全国に比して3ポイント以上下回った問題・・・8
- (15) 算数Bにおける無解答率について・・・・・・9

4. 市内中学校の結果概要

- (1) 教科全体の状況・・・・・・・・・・・・・・9
- (2) 国語Aの全体的傾向・・・・・・・・・・・・10
- (3) 国語Aにおいて平均正答率が全国に比して3ポイント以上上回った問題・・・11
- (4) 国語Aにおいて平均正答率が全国に比して3ポイント以上下回った問題・・・11
- (5) 国語Aにおける無解答率について・・・・・・12
- (6) 国語Bの全体傾向・・・・・・・・・・・・12
- (7) 国語Bにおいて平均正答率が全国に比して3ポイント以上上回った問題・・・12
- (8) 国語Bにおいて平均正答率が全国に比して3ポイント以上下回った問題・・・12
- (9) 国語Bにおける無解答率について・・・・・・13
- (10) 数学Aの全体的傾向・・・・・・・・・・・・13
- (11) 数学Aにおいて平均正答率が全国に比して3ポイント以上上回った問題・・・13
- (12) 数学Aにおいて平均正答率が全国に比して3ポイント以上下回った問題・・・14
- (13) 数学Aにおける無解答率について・・・・・・14

- (14) 数学Bの全体的傾向・・・・・・・・・・14
- (15) 数学Bにおいて平均正答率が全国に比して3ポイント以上上回った問題・・15
- (16) 数学Bにおいて平均正答率が全国に比して3ポイント以上下回った問題・・15
- (17) 数学Bにおける無解答率について・・・・・・・・15

5. 質問紙調査の結果概要

- (1) 小学校児童質問紙調査の結果から・・・・・・・・15～17
- (2) 中学校生徒質問紙調査の結果から・・・・・・・・18～19
- (3) 学校質問紙調査の結果から・・・・・・・・20

6. クロス集計の結果概要

- (1) 小学校児童クロス集計の結果から・・・・・・・・21
- (2) 中学校生徒クロス集計の結果から・・・・・・・・22

7. 総評

- (1) 小学校学力調査の結果から・・・・・・・・23
- (2) 中学校学力調査の結果から・・・・・・・・23
- (3) 小学校質問紙調査の結果から・・・・・・・・23
- (4) 中学校質問紙調査の結果から・・・・・・・・23
- (5) クロス集計結果から・・・・・・・・24
- (6) 今後の北広島市としての取組・・・・・・・・24

全国学力・学習状況調査

北広島市の調査結果（報告）

1. 今年度調査の概要・内容

（1）調査の目的

全国学力・学習状況調査は、以下の①、②の取組を通じ、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立することを目的として実施されています。

- ① 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ② 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

（2）調査対象

- ・ 小学校6年生
- ・ 中学校3年生

（3）調査の方式

全国学力・学習状況調査の方式は、「悉皆（しっかい）調査」です。

* 悉皆調査は「全数調査」とも呼ばれ、集まったデータすべてをもれなく分析する調査のことです。

（4）調査の方式

① 教科に関する調査（テスト）

平成29年度は、小学6年生は国語・算数、中学3年生は国語・数学の2教科で実施され、各教科で「A」と「B」の2種類の調査が行われました。

A（主として「知識」に関する問題）
・ 身につけておかなければならない後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容
・ 実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など
B（主として「活用」に関する問題）
・ 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力
・ 様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力 など

② 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査（アンケート）

児童生徒一人一人を対象にした調査と、各小中学校を対象とした調査の2種類が行われました。

児童生徒に対する調査
・ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査など
学校に対する調査
・ 指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件整備の状況等の調査など

(5) 調査実施日

平成29年4月19日(火)

(6) 調査を受けた児童生徒数

① 小学校

	国語A	国語B	算数A	算数B
北広島市	495	495	495	495
北海道	35,797	35,791	35,802	35,794
全国	1,021,905	1,021,635	1,021,910	1,021,637

(単位：人)

② 中学校

	国語A	国語B	数学A	数学B
北広島市	536	536	537	537
北海道	37,265	37,245	37,252	37,248
全国	1,023,860	1,023,987	1,024,189	1,024,165

(単位：人)

* 「北海道」の児童生徒数は公立学校のみ

* 「全国」の児童生徒数は国立・公立・私立学校の合計

2. 調査結果分析の留意点

(1) 調査結果についての留意点

全国学力・学習状況調査は、国語・算数(数学)の2教科について実施し、また設問は各教科のすべての領域や内容を含んでいません。したがって、調査結果から捉えることができるのは、児童生徒が身につけるべき学力の一部であり、また各学校で行われている教育活動の一部分を見ることであることに留意してください。

(2) 調査結果の掲載方法について

「教科に関する調査」における平均正答率の数値については、本調査の目的及び実施要領中の配慮事項に鑑みて公表いたしません。

(3) 調査結果の表示について

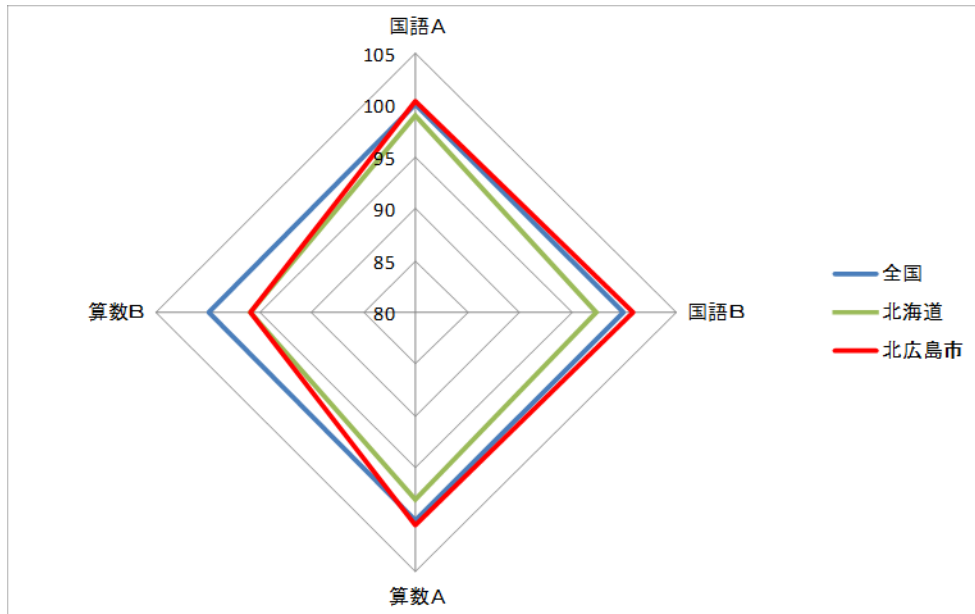
全国の平均正答率との比較を、文言で表記します。

全国平均正答率とのポイント差	表記
+9.0ポイント以上	高い
+3.0ポイント ~ +8.9	やや高い
-2.9ポイント ~ +2.9	同様
-3.0ポイント ~ -8.9	やや低い
-9.0ポイント以下	低い

3. 市内小学校の結果概要

(1) 教科全体の状況

■ 全国平均正答率を100としたときの本市及び北海道の平均正答率



【全国平均正答率，全道平均正答率と本市小学校平均正答率との比較】

	全国平均正答率	全国との比較	全道平均正答率	全道との比較
国語A	74.8%	同様	74.0%	同様
国語B	57.5%	同様	56.0%	同様
算数A	78.6%	同様	77.0%	同様
算数B	45.9%	同様	44.0%	同様

※同様の赤字は、平均正答率（全国・全道）を越えているものを表しています。

【分析】

☆小学校の平均正答率は、すべての教科において、全国平均正答率との差が±3ポイント以内です。平成29年度の調査では、本市小学校では「全国と同様な状況」です。

【資料 標準化得点の推移】

全国平均正答数を100として、本市の正答数を表記した値を標準化得点と言います。

年度	国語A	国語B	算数A	算数B	理科
26年度	101	99	100	99	
27年度	101	98	100	98	99
28年度	101	99	99	96	
29年度	100	101	101	96	

※小数第1位で四捨五入

(2) 国語Aの全体的傾向

	全国平均正答率	全国との比較	全道平均正答率	全道との比較
全体	74.8%	同様	74.0%	同様
話すこと・聞くこと	69.2%	同様	68.2%	同様
書くこと	60.6%	同様	57.6%	同様
読むこと	70.2%	同様	68.9%	同様
伝統的な言語文化と国語 との特質に関する事項	78.0%	同様	77.3%	同様
話す・聞く能力	69.2%	同様	68.2%	やや高い
書く能力	60.6%	同様	57.6%	同様
読む能力	70.2%	同様	68.9%	同様
言語についての知識・理 解・技能	78.0%	同様	77.3%	同様

注) 黒字は学習指導要領の領域等、青字は評価の観点を表しています。

※同様の赤字は、平均正答率(全国・全道)を越えているものを表しています。

【分析】

☆国語A(主として知識)の平均正答率は、すべての領域で全国平均正答率との差が±3ポイント以内です。平成29年度の調査では、本市小学校は「全国と同様な状況」です。※全国平均正答率を若干上回っています。

○学習指導要領の領域等では、いずれも全国・全道ともに「同様」な結果です。

○評価の観点では、「話す・聞く能力」が全道に比して「やや高い」結果です。

(3) 国語Aにおいて平均正答率が全国に比して3ポイント以上上回った問題

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の 領域等	全国との比較	全国平均正答率
7(5)	漢字を書く (箱がおいてあります)	学年別漢字配当表 に示されている漢 字を正しく書く	伝統的な言語文 化と国語の特質 に関する事項	高い	76.8%
7(1)	漢字を書く (参加たいしょう)	学年別漢字配当表 に示されている漢 字を正しく書く	伝統的な言語文 化と国語の特質 に関する事項	やや高い	42.0%

(4) 国語Aにおいて平均正答率が全国に比して3ポイント以上下回った問題

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の 領域等	全国との比較	全国平均正答率
2二	手紙の後付けに 必要な日付, 署 名, 宛て名のそ れぞれの位置に ついて, 適切な ものを選択する	手紙の構成を理解 し, 後付けを書く	書くこと	やや低い	41.5%

4一	俳句の情景について考えたこととして適切なものを選択する	俳句の情景を捉える	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	やや低い	79.4%
4二	グループの話し合いを通して見つけた俳句のよさとして適切なものを選択する	俳句の情景を捉える	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	やや低い	57.0%

(5) 国語Aにおける無解答率について

注) 「無解答率」とは、問題を取り組んでいて、途中で解答を断念して解答欄に何も書かない場合を言います。したがって全国と比して「下回る(低い)」状況ほど良い傾向にあります。口国語Aにおける無解答率は、15問中、全国を下回っているか、ほぼ同様の無解答率でした。口特に、設問番号「7(1)」「7(5)」(学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く)では、全国の無解答率を大きく下回っています。

(6) 国語Bの全体的傾向

	全国平均正答率	全国との比較	全道平均正答率	全道との比較
全体	57.5%	同様	56.0%	同様
話すこと・聞くこと	64.9%	同様	48.6%	同様
書くこと	53.4%	同様	51.5%	やや高い
読むこと	49.2%	同様	67.6%	同様
国語への関心・意欲	41.7%	やや高い	52.9%	やや高い
話す・聞く能力	64.9%	同様	48.6%	同様
書く能力	53.4%	同様	51.5%	やや高い
読む能力	49.2%	同様	67.6%	同様

注) 黒字は学習指導要領の領域等、青字は評価の観点を表しています。

【分析】

※同様の赤字は、平均正答率(全国・全道)を越えているものを表しています。

☆国語B(主として活用)の平均正答率は、全国平均正答率との差が±3ポイント以内です。平成29年度の調査において、本市小学校では、「全国と同様な状況」です。
※全国平均正答率を若干上回っています。

○学習指導要領の領域等では、いずれも全国に比して「同様」な結果です。「書くこと」は全道に比して「やや高い」結果です。

○評価の観点では、いずれも全国に比して「同様」な結果です。「国語への関心・意欲」は、全国・全道と比して「やや高い」結果となり、「書く能力」は全道に比して「やや高い」結果です。

(7) 国語Bにおいて平均正答率が全国に比して3ポイント以上上回った問題

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等	全国との比較	全国平均正答率
3三	「きつねの写真」から取り上げた言葉や文を基に、松ぞうじいさんととび吉がきつねだと考えたわけをまとめて書く	物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめる	書くこと 読むこと	やや高い	43.7%
1二	グループの話合いの中で、石田さんたちは、スピーチメモを使うことについてどのように考えているかについて書く	話の構成を工夫して話すことができるなどのスピーチメモのよさを捉える	話すこと・聞くこと	やや高い	69.2%

(8) 国語Bにおいて平均正答率が全国に比して3ポイント以上下回った問題

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等	全国との比較	全国平均正答率
3一	「きつねの写真」を読み、登場人物の相互関係と場面についての描写を捉え、[A]に当てはまる言葉として適切なものを選択する	登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉える	読むこと	やや低い	75.9%

□国語Bにおける無解答率は、15問中、全国を下回っているか、ほぼ同様の無解答率でした。

※同様の赤字は、平均正答率（全国・全道）を越えているものを表しています。

(9) 算数Aの全体的傾向

	全国平均正答率	全国との比較	全道平均正答率	全道との比較
全体	78.6%	同様	77.0%	同様
数と計算	80.6%	同様	79.5%	同様
量と測定	68.8%	同様	67.1%	同様
図形	81.1%	同様	78.2%	同様
数量関係	79.6%	同様	77.9%	同様
数量や図形についての技能	77.7%	同様	76.3%	同様
数量や図形についての知識・理解	79.7%	同様	78.4%	同様

注) 黒字は学習指導要領の領域等、青字は評価の観点を表しています。

【分析】

☆算数A（主として知識）の平均正答率は、すべての領域で全国平均正答率との差が±3ポイント以内です。平成29年度の調査では、本市小学校では、「全国と同様な状況」です。※全国平均正答率を若干上回っています。

○学習指導要領の領域等では、すべての項目で全国、全道ともに比して「同様」な結果です。
 ○評価の観点では、すべての項目で全国、全道に比して「同様」な結果です。

(10) 算数Aにおいて平均正答率が全国に比して3ポイント以上上回った問題

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等	全国との比較	全国平均正答率
2(2)	10.3+4を計算する	小数と整数の加法の計算をすることができる	数と計算 数量関係	やや高い	79.7%
2(1)	123×52を計算する	整数の乗法の計算をすることができる	数と計算	やや高い	85.2%

(11) 算数Aにおいて平均正答率が全国に比して3ポイント以上下回った問題

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等	全国との比較	全国平均正答率
6	円を使い正五角形をかくとき、円の中心のまわりの角を何度ずつに分割すればよいかを書く	正五角形は、五つの合同な二等辺三角形で構成できることを理解している	図形	やや低い	75.5%

(12) 算数Aにおける無解答率について

□算数Aにおける無解答率は、19問中、設問6が全国よりやや高く、4つの設問が全国と同様で、他の設問においては全国を下回り大変良い結果でした。

※同様の赤字は、平均正答率（全国・全道）を越えているものを表しています。

(13) 算数Bの全体的傾向

	全国平均正答率	全国との比較	全道平均正答率	全道との比較
全体	45.9%	同様	44.0%	同様
数と計算	52.8%	同様	51.1%	同様
量と測定	47.0%	同様	41.3%	やや高い
図形	13.2%	同様	10.4%	同様
数量関係	40.0%	同様	37.3%	同様

数学的な考え方	45.4%	同様	42.9%	同様
数量や図形についての知識・理解	48.6%	同様	46.4%	やや高い

注) 黒字は学習指導要領の領域等、青字は評価の観点を表しています。

【分析】

☆算数B（主として活用）の平均正答率は、すべての領域で全国平均正答率との差が±3ポイント以内です。

- 学習指導要領の領域等では、「量と測定」が全道に比して「やや高い」結果となりました。他の領域は、いずれも全国・全道に比して「同様」な結果です。
- 評価の観点では、「数量や図形についての技能」が全国に比して「やや高い」結果です。その他の観点等では、いずれも全国・全道に比して「同様」な結果です。

(14) 算数Bにおいて平均正答率が全国に比して3ポイント以上上回った問題

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等	全国との比較	全国平均正答率
4(2)	学年全体の人数に対するハンカチとティッシュペーパーの両方を持ってきた人数の割合を表しているグラフを選ぶ	割合を比較するという目的に適したグラフを選ぶことができる	数量関係	やや高い	29.3%
3(2)	仮の平均の考えを活用して、測定値の平均を求める	仮の平均を用いた考えを解釈し、示された数値を基準とした場合の平均の求め方を記述できる	量と測定 数量関係	やや高い	26.1%

(15) 算数Bにおいて平均正答率が全国に比して3ポイント以上下回った問題

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等	全国との比較	全国平均正答率
2(2)	13本の直線を使う場合、手紙の用紙の長い辺を3等分するのは、何本目の直線と交わった点かを書く	直線の数とその間の数の関係に着目して、示された方法を問題場面に適用することができる	数と計算	やや低い	27.4%
1(1)	カードの差が4の場合の、2けたのひき算の式と答えを書く	示された条件を基に、適切な式を立てることができる	数と計算	やや低い	76.0%

(16) 算数Bにおける無解答率について

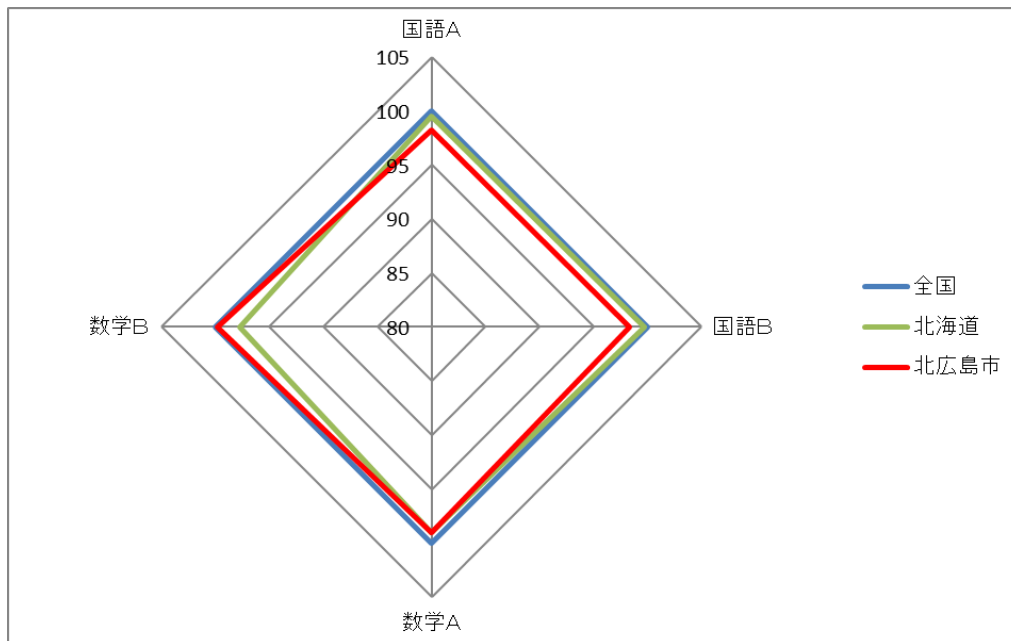
設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等	全国との比較	全国平均無回答率
1(3)	2けたのひき算の答えを求めることができるきまりを書く	問題に示された二つの数量の関係を一般化して捉え、そのきまりを記述できる	数と計算	やや高い	14.9%
3(2)	仮の平均の考えを活用して、測定値の平均を求める	仮の平均を用いた考えを解釈し、示された数値を基準とした場合の平均の求め方を記述できる	量と測定 数量関係	やや高い	12.7%

□他の設問の、算数Bにおける無解答率は、全国より下回り大変良い結果でした。

4. 市内中学校の結果概要

(1) 教科全体の状況

■全国平均正答率を100としたときの本市及び北海道の平均正答率



【全国平均正答率，全道平均正答率との本市小学校平均正答率との比較】

	全国平均正答率	全国との比較	全道平均正答率	全道との比較
国語A	77.4%	同様	77.0%	同様
国語B	72.2%	同様	72.0%	同様
数学A	64.6%	同様	64.0%	同様
数学B	48.1%	同様	47.0%	同様

【分析】

☆国語A、国語B、数学A、数学Bにおいて、全国平均正答率との差が±3ポイント以内です。平成29年度の調査では、本市中学校では、「全国と同様な状況」です。

【資料 標準化得点の推移】

全国平均正答数を100として、本市の正答数を表記した値を標準化得点と言います。

年度	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
26年度	98	99	98	99	
27年度	99	100	100	98	107
28年度	101	97	100	101	
29年度	98	98	99	100	

(2) 国語Aの全体的傾向

	全国平均正答率	全国との比較	全道平均正答率	全道との比較
全体	77.4%	同様	77.0%	同様
話すこと・聞くこと	75.4%	同様	75.0%	同様
書くこと	85.7%	同様	85.3%	同様
読むこと	73.8%	同様	73.1%	同様
伝統的な言語文化と国語 との特質に関する事項	77.2%	同様	76.3%	同様
話す・聞く能力	75.4%	同様	75.0%	同様
書く能力	85.7%	同様	85.3%	同様
読む能力	73.8%	同様	73.1%	同様
言語についての知識・理 解・技能	77.2%	同様	76.3%	同様

注) 黒字は学習指導要領の領域等、青字は評価の観点を表しています。

【分析】

☆国語A（主として知識）の平均正答率は、全ての領域で全国平均正答率との差が±3ポイント以内です。平成29年度の調査では、本市中学校では、「全国と同様な状況」です。

- 学習指導要領の領域等では全ての項目で全国・全道に比して「同様」な結果です。
- 評価の観点では全ての項目で全国・全道に比して「同様」な結果です。

(3) 国語Aにおいて平均正答率が全国に比して3ポイント以上上回った問題

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等	全国との比較	全国平均正答率
9-2	漢字を書く(雨で運動会がエンキになる)	文脈に即して漢字を正しく書く	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	やや高い	62.3%
9六1	楷書と比較したときの行書の説明として適切なものを選択する	楷書と行書との違いを理解する	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	やや高い	49.6%

(4) 国語Aにおいて平均正答率が全国に比して3ポイント以上下回った問題

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等	全国との比較	全国平均正答率
9-1	漢字を書く(組織のキボを大きくする)	文脈に即して漢字を正しく書く	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	やや低い	62.8%
2-1	スピーチをより分かりやすくするためにイラストを提示する箇所として適切なものを選択する	目的に応じて資料を効果的に活用して話す	話すこと・聞くこと	やや低い	87.8%
9三ア	適切な語句を選択する(えりを正して話を聞く)	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	やや低い	76.9%
9三イ	適切な語句を選択する(えりを正して話を聞く)	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	やや低い	61.4%
2二	スピーチの構成を説明したものとして適切なものを選択する	事実と考えとの関係に注意し、構成を工夫して話す	話すこと・聞くこと	やや低い	79.6%
4二	文章について説明したものとして適切なものを選択する	文章の構成や展開、表現の特徴について自分の考えをもつ	読むこと	やや低い	72.9%
9六2	行書で書かれた「和」の特徴の組合せとして適切なものを選択する	行書の特徴を理解する	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	やや低い	63.7%

(5) 国語Aにおける無解答率について

□国語Aの無解答率は、36問中すべての設問が全国と同様か下回る良い結果でした。

□設問番号「9-2 漢字を書く（雨で運動会がエンキになる）」「9五 話合いの記録として適切な言葉を考える」が、全国に比べてやや高い無解答率でした。

(6) 国語Bの全体的傾向

	全国平均正答率	全国との比較	全道平均正答率	全道との比較
全体	72.2%	同様	72.0%	同様
話すこと・聞くこと	72.4%	同様	71.9%	同様
書くこと	60.8%	同様	60.1%	同様
読むこと	72.1%	同様	71.9%	同様
伝統的な言語文化と国語の 特質に関する事項	41.4%	同様	40.7%	同様
国語への関心・意欲・態度	55.9%	同様	55.2%	同様
話す・聞く能力	72.4%	同様	71.9%	同様
書く能力	60.8%	同様	60.1%	同様
読む能力	72.1%	同様	71.9%	同様
言語についての知識・理 解・技能	41.4%	同様	40.7%	同様

注) 黒字は学習指導要領の領域等、青字は評価の観点を表しています。

【分析】

※同様の赤字は、平均正答率（全国・全道）を越えているものを表しています。

☆国語B（主として活用）の平均正答率は、すべての領域、観点で全国平均正答率との差が-3ポイント以内です。平成29年度の調査では、本市中学校は、「全国と同様な状況」です。

- 学習指導要領の領域等では、全ての項目で全国・全道ともに「同様」な結果です。
- 評価の観点では、すべての項目で全国・全道に比して「同様」な結果です。

(8) 国語Bにおいて平均正答率が全国に比して3ポイント以上上下回った問題

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等	全国との比較	全国平均正答率
3-	下書きについての説明として適切なものを選択する	集めた材料を整理して文章を構成する	書くこと	やや低い	75.3%
2-	スピーチの中で実演を行った意図として適切なものを選択する	目的に応じて資料を効果的に活用して話す	話すこと 聞くこと	やや低い	85.4%

注) 平均正答率が全国に比して3ポイント以上上回った問題はありませんでした。

(9) 国語Bにおける無解答率について

□国語Bの無解答率は、9問中すべての設問が全国と同様か下回る良い結果でした。

(10) 数学Aの全体的傾向

	全国平均正答率	全国との比較	全道平均正答率	全道との比較
全体	64.6%	同様	64.0%	同様
数と式	70.4%	同様	68.1%	同様
図形	66.0%	同様	66.4%	同様
関数	57.4%	同様	56.9%	同様
資料の活用	57.6%	同様	56.0%	同様
数学的な技能	68.2%	同様	66.4%	同様
数量や図形などについての知識・理解	60.2%	同様	60.3%	同様

注) 黒字は学習指導要領の領域等、青字は評価の観点を表しています。

※同様の赤字は、平均正答率(全国・全道)を越えているものを表しています。

【分析】

☆数学A(主として知識)の平均正答率は、全ての領域、観点で全国平均正答率との差が±3ポイント以内です。平成29年度の調査では、本市中学校では、「全国と同様な状況」です。

○学習指導要領の領域等では、全ての項目で全国・全道に比して「同様」な結果です。

○評価の観点では、すべての項目で全国・全道に比して「同様」な結果です。

(11) 数学Aにおいて平均正答率が全国に比して3ポイント以上上回った問題

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等	全国との比較	全国平均正答率
14(2)	6月1日から30日までの記録を表した度数分布表から、ある階級の相対度数を求める	与えられた度数分布表について、ある階級の相対度数を求めることができる	資料の活用	やや高い	45.5%
11(2)	変化の割合が2である一次関数の関係を表した表を選ぶ	与えられた一次関数の表において、変化の割合の意味を理解している	関数	やや高い	56.0%
6(1)	錯角の位置にある角について正しい記述を選ぶ	錯角の意味を理解している	図形	やや高い	43.1%

(12) 数学Aにおいて平均正答率が全国に比して3ポイント以上下回った問題

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等	全国との比較	全国平均正答率
5(3)	立方体の見取図を読み取り、2つの線分の長さの関係について正しい記述を選ぶ	見取図に表された立方体の面上の線分の長さの関係を読み取ることができる	図形	やや低い	80.2%
1(3)	$10 - 6 \div (-2)$ を計算する	加減乗除を含む正の数と負の数の計算において、計算のきまりにしたがって計算できる	数と式	やや低い	75.6%
2(2)	$100 - 20a = b$ の式が表される場面を選ぶ	与えられた文字式の意味を、具体的な事象の中で読み取ることができる	数と式	やや低い	75.4%
5(4)	円柱の体積を求める	円柱の体積を求めることができる	図形	やや低い	51.8%
3(4)	連立二元一次方程式を解く	簡単な連立二元一次方程式を解くことができる	数と式	やや低い	62.2%

(13) 数学Aにおける無解答率について

□ 数学Aにおける無解答率は、36問中16の設問で全国より低い結果でしたが、20の設問で全国と比べて高い結果となりました。

□ 特に、9「長方形の縦の長さとの面積の関係を、「…は…の関数である」という形で表現する」が全国と比べて高い無解答率で、11(1)「一次関数のグラフの傾きと切片の値を基に、式で表すことができる」が全国よりも低い無解答率でした。

(14) 数学Bの全体的傾向

	全国平均正答率	全国との比較	全道平均正答率	全道との比較
全体	48.1%	同様	47.0%	同様
数と式	46.3%	同様	44.9%	同様
図形	47.1%	同様	46.0%	同様
関数	50.8%	同様	50.8%	同様
資料の活用	49.1%	同様	46.8%	同様
数学的な見方や考え方	36.8%	同様	35.2%	同様
数学的な技能	61.2%	同様	61.4%	同様
数量や図形などについての知識・理解	85.1%	同様	83.4%	同様

注) 黒字は学習指導要領の領域等、青字は評価の観点を表しています。

【分析】

※同様の赤字は、平均正答率(全国・全道)を超えているものを表しています。

☆ 数学B(主として活用)の平均正答率は、全ての領域、観点で全国平均正答率との差が±3ポイント以内です。平成29年度の調査では、本市中学校では、「全国と同様な状況」です。

- 学習指導要領の領域等では、全ての項目で全国・全道に比して「同様」な結果です。
- 評価の観点では、全ての項目で全国・全道に比して「同様」な結果です。

(15) 数学Bにおいて平均正答率が全国に比して3ポイント以上上回った問題

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等	全国との比較	全国平均正答率
4 (1)	2つの角の大きさが等しいことを、三角形の合同を利用して証明する	角の二等分線の作図の根拠となる対称な図形を選ぶ	図形	やや高い	44.1%
3 (3)	与えられた式から、 a の変域に対応する b の変域を求める	数学的な表現を事象に即して解釈し、的確に処理することができる	関数	やや高い	31.1%

(16) 数学Bにおいて平均正答率が全国に比して3ポイント以上下回った問題

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等	全国との比較	全国平均正答率
1 (3)	与えられた模様となるような万華鏡を作りたいときに、その基となる正三角形の模様を選ぶ	与えられた模様となるような万華鏡を作りたいときに、その基となる正三角形の模様を選ぶ	図形	やや低い	52.8%
2 (1)	六角形を5個つくるのに必要なストローの本数を求める	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる	数と式	やや低い	80.4%

(17) 数学Bにおける無解答率について

- 数学Bの無解答率は、15問中5つの設問で全国より低い結果でしたが、10の設問は全国と比べて高い無解答率でした。
- 特に、4(2)「 $\angle BAD$ と $\angle CBE$ が 20° のとき $\angle BEA$ の大きさを求める」が、全国と比べて高い無解答率でした。

5. 質問紙調査の結果概要

(1) 小学校児童質問紙調査の結果から

- ☆ 北広島市の小学生は、家で学校の授業の復習をしています。
- ☆ 北広島市の小学生は、自分で計画を立てて勉強しています。
- ☆ 北広島市の小学生は、地域社会などでボランティア活動に参加しています。

①生活習慣

北広島回答率%

設問 番号	質 問 事 項	回答の基準	H29	全国比	全道比
			H28	全国比	全道比
12	普段（月曜日～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか。	3時間以上見ている	34.2	+1.5	-1.8
			34.5	+1.7	-2.0
13	普段（月曜日～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか。	3時間以上している	21.0	+3.4	-1.7
			19.4	+3.4	-1.8
14	普段（月曜日～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか。	1時間以上している	25.4	+4.9	-0.2
			21.1	+2.6	-2.1
15	学校の授業時間以外に、普段（月曜日～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか。	1時間以上している	67.7	+3.3	+10.6
			63.9	+1.4	+9.2
29	自分で計画を立てて勉強している	「している」「どちらかといえば、している」	71.0	+6.5	+5.6
			70.2	+8.0	+6.7
32	家で、学校の授業の復習をしている	「している」「どちらかといえば、している」	74.0	+20.2	+9.3
			74.6	+19.4	+9.2

【分析】

- ・ 普段、テレビなどを見たり、ゲーム・携帯をしている時間が全国に比して多くなっています。
- ・ 普段、1時間以上勉強していると回答した児童の割合が全国、全道に比して高く、さらに自分で計画を立てて勉強していると回答した児童の割合が全国に比して高い状況です。

②自分の理解と周囲への意識

北広島回答率%

設問 番号	質 問 事 項	回答の基準	H29	全国比	全道比
			H28	全国比	全道比
43	地域社会などでボランティア活動に参加したことがある	参加したことがある	45.4	+10	+13
			46.3	+10.1	+12.9
49	学校のきまりを守っている	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	91.7	+0.9	+0.1
			91.6	+0.1	+1.2
51	人が困っているときは、すすんで助けていますか。	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	82.1	-3.2	-1.8
			79.3	-5.3	-3.4
52	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	95.6	-0.5	-0.2
			98.0	+1.4	+1.2
53	人の役に立つ人間になりたいと思う	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	94.6	+2.1	+2.9
			93.9	+0.1	+0.7

【分析】

- ・学校のきまりを守って生活をしていると回答した児童の割合は全国同様高い状況です。
- ・人が困っているときは、すすんで助けるは全国・全道に比して低い状況です。
- ・将来、人の役に立つ人間になりたいと思っている児童の割合が全国に比してやや高い状況です。
- ・いじめは、どんな理由があってもいけないことと思っている児童の割合は、ほぼ全国、全道と同様の状況です。

③授業や教科の学習

北広島回答率%

設問 番号	質 問 事 項	回答の基準	H29	全国比	全道比
			H28	全国比	全道比
61	授業のはじめに目標（めあて・ねらい） 示されていたと思う	「当てはまる」「どちら かといえば、当てはまる」	86.6	-1.6	+1.4
			85.4	-2.2	+1.2
62	授業の最後に学習内容を振り返る活動 をよくおこなっていたと思う	「当てはまる」「どちら かといえば、当てはまる」	69.1	-7.1	-3.3
			75.0	-1.1	+2.5
63	授業で扱うノートには、学習の目標（め あて・ねらい）とまとめを書いていた	「当てはまる」「どちら かといえば、当てはまる」	85.7	-3.0	+3.8
			84.1	-3.8	+1.9
69	国語の勉強は好きだ	「当てはまる」「どちら かといえば、当てはまる」	49.4	-11.1	-11.5
			52.8	-5.5	-5.7
70	国語の勉強は大切だ	「当てはまる」「どちら かといえば、当てはまる」	89.1	-2.1	-2.3
			90.4	-0.9	-1.3
71	国語の授業の内容はよくわかる	「当てはまる」「どちら かといえば、当てはまる」	78.6	-3.6	-3.6
			79.9	-0.8	-1.0
78	算数の勉強は好きだ	「当てはまる」「どちら かといえば、当てはまる」	59.5	-6.4	-4.4
			61.9	-4.1	-2.2
79	算数の勉強は大切だ	「当てはまる」「どちら かといえば、当てはまる」	90.6	-1.4	-0.7
			92.2	+0.3	+0.8
80	算数の授業はよくわかる	「当てはまる」「どちら かといえば、当てはまる」	81.1	+0.5	+3.2
			78.9	-1.4	+1.1

【分析】

- ・昨年同様、国語・算数の勉強は好きだと回答した児童の割合が全国・全道に比して低い状況です。同様に、国語・算数の勉強は大切だと回答した児童の割合も全国・全道に比してやや低い状況です。
- ・国語の授業の内容はよくわかると回答した児童の割合は、全国・全道に比してやや低い状況ですが、算数の授業はよくわかるについては、全国・全道を上回っています。

(2) 中学校生徒質問紙調査の結果から

☆北広島市の中学生は、地域社会などでボランティア活動に積極的に参加しています。

☆北広島市の中学生は、家で学校の復習をよくしています。

☆北広島市の中学生は、読書が好きで、新聞もよく読んでいます。

①生活習慣

設問 番号	質問事項	回答の基準	北広島回答率%		
			H29 H28	全国比 全国比	全道比 全道比
12	普段（月曜日～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか。	3時間以上見ている	27.1	+1.8	-0.4
			20.1	-4.0	-5.7
13	普段（月曜日～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか。	3時間以上している	24.2	+2.8	-1.7
			17.8	-1.1	-5.3
14	普段（月曜日～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか。	1時間以上している	50.1	+0.3	-5.1
			50.7	+2.9	-1.2
18	学校の授業時間以外に、普段（月曜日～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか。	1時間以上している	63.7	-5.9	-0.5
			62.5	-5.4	+0.7
31	自分で計画を立てて勉強している	「している」「どちらかといえば、している」	51.1	-0.4	-0.1
			46.2	-2.0	-2.0
34	家で、学校の復習をしている	「している」「どちらかといえば、している」	59.7	+9.2	+2.8
			62.1	+11.1	+5.7

【分析】

- ・ 普段、テレビなどを見たり、ゲーム・携帯をしている時間が全道に比すると低くなっていますが、全国に比すると、やや高い状況にあります。※昨年はやや低い
- ・ 普段、1時間以上勉強していると回答した生徒の割合が全国に比して低い状況です。
- ・ 家で学校の復習をしているは、昨年同様、全国より高い状況です。

②自分の理解と周囲への意識

設問 番号	質問事項	回答の基準	北広島回答率%		
			H29 H28	全国比 全国比	全道比 全道比
43	地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	65.4	+6.2	+7.9
			66.6	+0.8	+2.7
47	新聞を読んでいますか	「ほぼ毎日読んでいる」「週に1～3回程度読んでいる」	35.9	+5.5	+3.6
			21.8	+3.5	+1.5

45	地域社会などでボランティア活動に参加したことがある	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	71.0	+21.3	+25.6
			76.0	+5.8	+6.7
51	学校のきまりを守っている	「当てはまる」	64.9	+1.9	+3.7
			67.5	+5.9	+8.3

【分析】

- ・地域や社会で起こっている問題や出来事に関心があると回答した生徒の割合が全国・全道に比して高い状況です。
- ・新聞を読んでいると応えた生徒の割合が全国・全道に比して高い状況です。

③授業や教科の学習

北広島回答率%

設問 番号	質問事項	回答の基準	H29	全国比	全道比
			H28	全国比	全道比
58	授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思う	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	84.6	+0.2	+1.1
			86.6	+2.3	+3.6
71	国語の勉強は好きだ	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	54.7	-5.8	-7.9
			59.8	±0	-2.6
72	国語の勉強は大切だ	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	85.3	-3.5	-2.9
			84.9	-4.2	-4.0
73	国語の授業の内容はよくわかる	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	71.7	-3.2	-5.2
			74.1	±0	-1.5
74	読書は好きだ	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	75.3	+5.4	+1.3
			74.2	+3.3	+0.7
75	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	84.0	+0.7	+1.0
			83.2	-1.4	-1.3
80	数学の勉強は好きだ	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	52.8	-2.6	-0.4
			52.5	-3.5	-0.4
81	数学の勉強は大切だ	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	78.0	-3.1	-1.5
			77.9	-2.6	-0.9
82	数学の授業の内容はよくわかる	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	64.0	-5.4	-4.9
			68.6	-0.8	+1.0
86	数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	71.0	-1.4	±0
			69.9	-1.6	+0.1

【分析】

- ・国語、数学の勉強は好きだ、国語、数学の勉強は大切だと回答した生徒の割合が全国・全道に比して低い状況です。
- ・読書が好きだと回答した生徒の割合が全国・全道に比して高い状況です。

(3) 学校質問紙調査の結果から

◎学校の特徴的な取組（上段：小学校、下段：中学校）平成28年度

設問 番号	質 問 事 項	回答の基準	北広島市の 回答率(%)	全国比	全道比
36	授業の中で目標（めあて・ねらい）を示す活動を計画的に取り入れている。	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	100.0	+1.2	+2.0
			100.0	+2.2	+6.2
37	授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れている	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	100.0	+5.1	+4.2
			100.0	+11.0	+7.1
34	将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしている	「よく行った」	75.0	+56.6	+51.1
			57.1	+13.6	+9.1

◎学校の特徴的な取組（上段：小学校、下段：中学校）平成29年度

設問 番号	質 問 事 項	回答の基準	北広島市の 回答率(%)	全国比	全道比
33	授業の中で目標（めあて・ねらい）を示す活動を計画的に取り入れている。	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	100.0	+1.0	+1.3
			100.0	+1.7	+3.0
34	授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れている	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	100.0	+4.6	+4.6
			100.0	+5.7	+5.0
45	将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしている	「よく行った」	77.8	+58.5	+51.3
			85.7	+40.3	+36.5

◎学校の特徴的な取組（上段：小学校、下段：中学校）平成29年度

設問 番号	質 問 事 項	回答の基準	北広島市の 回答率(%)	全国比	全道比
76	前年度までに、近隣等の中学校（小学校）と教育目標を共有する取り組みを行いましたか	「よく行った」	44.4	+22.6	+31.5
			57.1	+28.3	+38.7
78	前年度までに、近隣等の中学校（小学校）と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の取り組みを行いましたか	「よく行った」	55.6	+40.4	+43.7
			57.1	+36.4	+39.6
79	平成28年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の中学校（小学校）と成果や課題を共有しましたか	「よく行った」	88.9	+73.0	+67.0
			85.7	+65.9	+56.9

【分析】

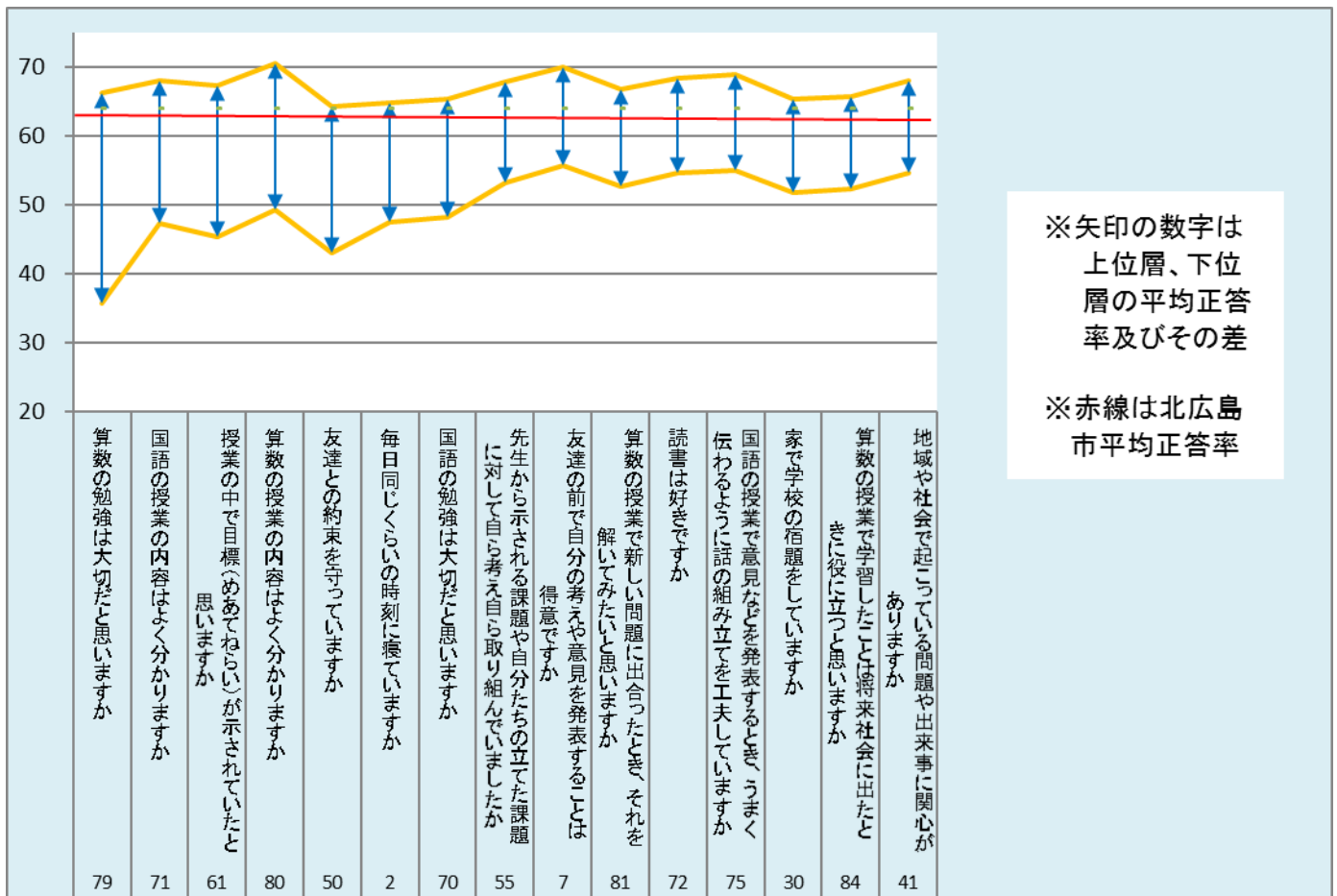
- ・授業の中で目標を示す活動、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り組んでいると回答した学校の割合が全国・全道に比して高い状況です。
- ・将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしていると回答した学校の割合が全国・全道に比して高い状況です。
- ・小中一貫教育実施に関する重要な取り組みである、小中で教育目標を共有する取り組み教育課程の接続等の取り組みを実施している学校の割合が全国・全道に比して高い。

6. クロス集計の結果概要

(1) 小学校児童クロス集計の結果から

①クロス集計とは

クロス集計とは、複数の項目を比べる統計的な手法の一つです。次の表は、北広島市内小学校6年生の全国学力・学習状況調査の教科の調査結果と児童質問紙の回答結果にどのような相関があるかを表しています。学力との相関が顕著な項目を以下に示します。



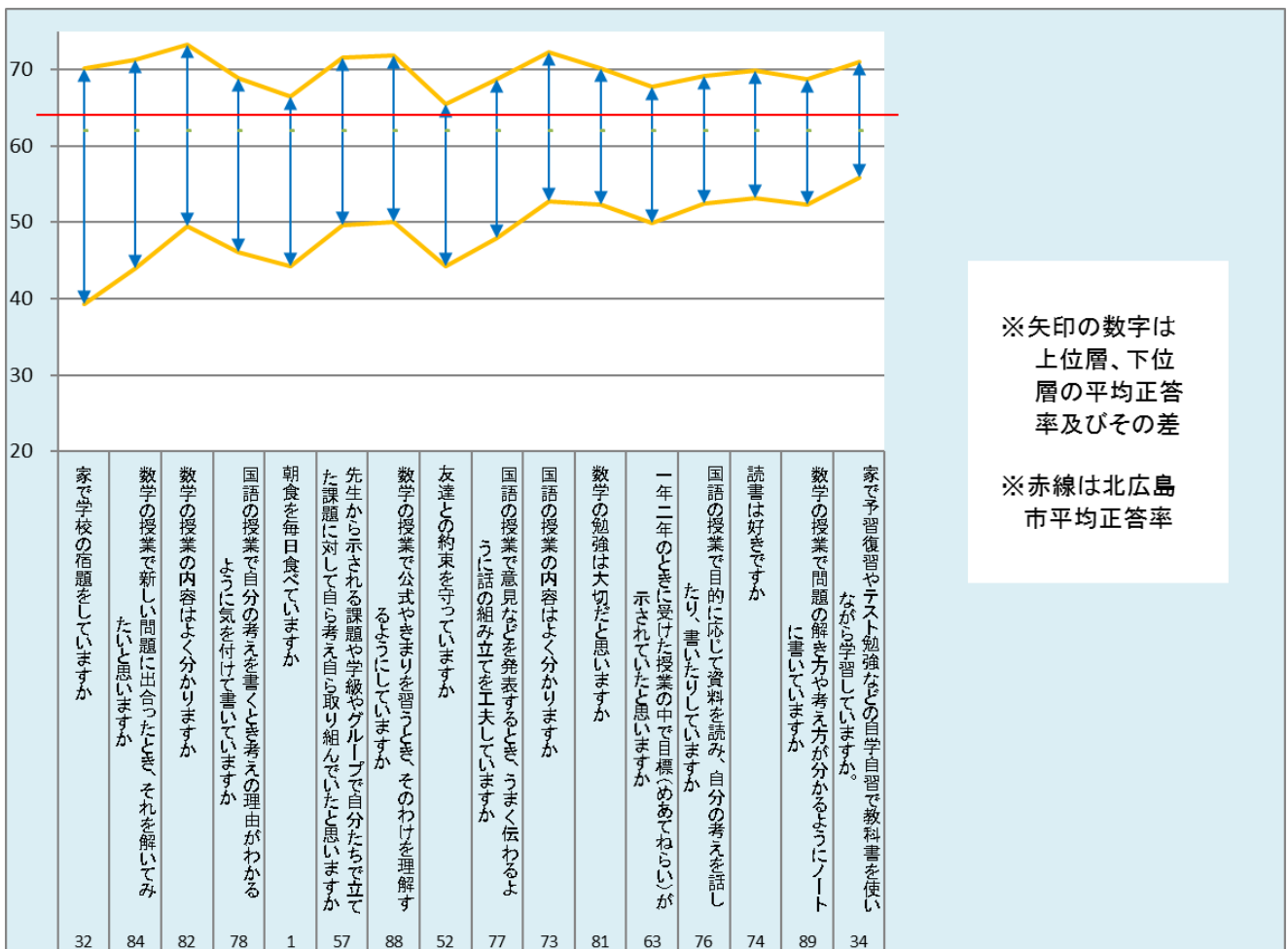
②グラフの見方

- 上のグラフで、赤線の「市平均」は、小学校国語A、国語B、算数A、算数Bの市内平均正答率平均値を表しています。
- 各項目の上下の幅が大きいほど学力との相関関係が高いことを表しています。
- 例えば、「算数の勉強は大切だと思いますか」の質問紙で、「思う」と答えた児童の方が、小学校国語A、国語B、算数A、算数Bの平均正答率が高い傾向にあると読み取ることができます。

③グラフから

- ・国語、算数の正答率の高さは、「勉強の大切さ」「授業がわかる」が大きな要因になっています。つまり、何のために学習するのかといった学習意欲が、授業理解に大きく影響しているといえます。
- ・「約束を守る」「朝食を毎日食べる」といった生活の状況も、平均正答率に大きく関与していることがわかります。

(2) 中学校生徒クロス集計の結果から



○グラフから

- ・小学校と同様に、「友達との約束を守る、朝食を食べる」などの生活習慣に関わる項目で、平均正答率が高い傾向にあると言えます。
- ・「新しい問題を解いてみる」「自ら考え自ら解く」等の学習に対する、意欲・態度が、平均正答率に大きく関与しています。

7. 総評

(1) 小学校学力調査の結果から

- ①学力調査の結果から、本市児童の平均正答率は、国語A、国語B、算数A、算数Bともに全国と「同様」な結果でした。
- ②国語Aでは、全ての領域・評価の観点で全国に比して「同様」な結果でした。漢字の問題は全国に比べて3ポイント以上高く、「手紙を書く」「俳句の情景をとらえる」3ポイント以上、下回りました。また、国語Bは、すべての領域・観点ともに全国に比して「同様」な結果でした。
- ③算数Aでは、すべての領域・観点ともに全国に比して「同様」な結果でした。特に「数と計算」「数量や図形についての技能」は、全国に比べて3ポイント以上上回った問題が、下回ったよりやや多い結果となっています。また、算数Bでは、全ての領域で全国に比して「同様」の結果でしたが、全道と同様、「図形」の領域が全国に比して「やや低い」結果でした。観点の中で数学的な考え方の問題の正答率が、全国より低い結果となりました。

(2) 中学校学力調査の結果から

- ①本市生徒の平均正答率は、国語A、国語B、数学A、数学Bとともに全国に比して「同様」な結果でした。
- ②国語Aでは、全ての領域・評価の観点で全国に比して「同様」な結果でした。また、国語Bでも、領域・観点ともにすべてで全国に比して「同様」な結果でした。
- ③数学Aでは、全ての領域・評価の観点で全国に比して「同様」な結果でした。全国に比べて3ポイント以上上回った問題と下回った問題がほぼ同数ありました。また、数学Bは、全ての領域・評価の観点で全国に比して「同様」な結果でした。

(3) 小学校質問紙調査の結果から

- ①自分で計画を立てて1時間以上勉強する、家で学校の授業の復習をしている児童が、全国に比して多い結果でした。
- ②地域社会などでボランティア活動に参加したことのある児童が全国に比して多い結果でした。
- ③国語、算数の授業が好きだと思っている児童が全国に比して少ない結果でした。

(4) 中学校質問紙調査の結果から

- ①地域社会などでボランティア活動に参加した、新聞を読んでいる、きまりを守っている生徒が全国に比して多い結果でした。
- ②読書が好きと応えた生徒が全国に比して多い結果でした。
- ③国語の勉強は大切だ、数学の勉強は好きだ、大切だと回答した生徒の割合が全国と比して低い結果でした。
- ④普段テレビを見たり、ゲームをする時間が昨年は全国に比して少ない結果でしたが、今年度は全道より少なくなっているものの、全国より多い傾向を示していました。

(5) クロス集計結果から

①小学校

「学習の大切さ」をとらえ、「学習課題」に対してしっかり取り組む児童の平均正答率が高い傾向が見られます。

②中学校

生活習慣が良好で、学習態度が真面目で積極的な生徒ほど平均正答率の高い傾向があります。

(6) 今後の北広島市としての取組

本年度の全国学力・学習状況調査の結果については、本市では概ね全国と同様でした。

ほぼ同様の状況でしたが、小学校では、3科目が全国平均を越えるなど、確実に市内の児童生徒の学力は向上してきています。それは、同時期に行われる標準学力検査（NRT）の結果にも表れています。

特に、次年度の市内小中一貫教育完全実施を見据え、学力検査、全国学力学習状況調査の結果を、中学校区の小中学校で共有し、授業改善等に生かす等、北広島市の学校教育の重点「義務教育9年間を通して生きる力を育む小中一貫教育の推進」の浸透がうかがわれます。

学力向上や確かな学力の定着は、一朝一夕には実現することはできません。回り道のようにも教員の日々の研鑽と校内外の組織的・個人的な研究・研修を通して授業改善を図ることが、地道ですが確実な方法であり、子どもたちの学習意欲や喜びに直結したものになります。

今後も、市内小中学校では、児童生徒の実態を的確に把握し、基礎的・基本的な内容を確実に身につけるとともに、発展的な学習についても意図的に取り入れるなど授業についての工夫と改善を一層重ねていきます。

また、結果の分析や改善策については、それぞれの学校で終わることなく、中学校区ごとに小中の課題を共通認識し、

- ・学習内容の系統性や重点化を図った授業づくり
 - ・課題の提示や振り返り場面の設定など小中一貫した授業づくり
 - ・家庭学習やノート指導の継続など学習方法定着のための指導
- など共同で改善策を探る取り組みを進めていきます。

さらに、特別支援教育の充実、ICTの活用、少人数指導やTT指導を進めるとともに、児童生徒の発達段階に応じて「自らを知り、よりよい自分を探る」キャリア教育の実践を通して、「夢を抱き、実現に向けて努力を重ねる」人間形成に取り組みます。

これらのことは学校だけでは実現できないことから、これまで以上に学校・家庭・地域が連携して、本市児童生徒の「学力の向上」に努めていきます。